

第5回 各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会 議事概要

日時 令和8年2月27日(金) 午前9時00分より  
 場所 産業文化センター4階 第2学習室  
 出席委員 高口努委員長、坂本一也副委員長、歳藤幸弘委員、奥村篤委員、  
 阿部雄介委員、木村徹之委員、熊崎健二委員、嶋一樹委員、  
 壁谷愛優美委員  
 欠席委員 佐々木麻美委員

5. 議事

- 議題1 「第4回検討委員会の振り返り」について
- 議題2 「義務教育学校の視察結果」について
- 議題3 「学校適正規模・適正配置等に関する基本計画(案)」について

議事録(要旨)

議題1「第4回検討委員会の振り返り」について

事務局	(第4回検討委員会に対する保護者などからの主な意見について説明した。)
-----	-------------------------------------

議題2「義務教育学校の視察結果」について

委員	9年間を通して育てることのできる安心感や早い段階からの教科担任制の導入が特によと感じた。自分の子どもも義務教育学校にぜひ通わせたいと感じた。
委員	自分の中で小学校や中学校のイメージが良い意味で変化した。視察した学校では、地域が協力的でゲストティーチャーとして参加したり、地域専用の諸室があったりと、地域と一緒に子どもを育てるというコンセプトをソフト面、ハード面の両方から感じた。一方で、この段階に至るまでに教職員をはじめ、多くの労力や時間がかかっており、本市においても今後検討する必要があると感じた。
委員	視察先の周辺には集合住宅が多く、自治会の加入率も下がっていることを聞いた。地域事情においては、本市においても共通する点があるように感じた。
委員	校舎は素晴らしく感じ、グラウンドでも異学年が楽しそうに遊んでいた。また、授業も落ち着いて受けている印象があった。地域との関わりも考えられており、学校再編においては構想段階から様々な検討が必要になることを感じた。一方で教頭先生が地域住民との窓口を一人で対応しており、負担が大きいと感じた。
委員	義務教育学校は9学年の学校であるため、学校規模が大きくなることがあるが、1,000人を超える規模であっても問題なく学校運営ができることを感じた。地域とのつながりはとても重要であり、今後も検討が必要だが、教職員ではない人が地域と学校をつなぐ役割を担うことも必要ではないかと感じた。教頭先生の業務

	負担が大きくなっている点についても検討が必要である。学校再編によって地域をテーマにした活動が9年間で一本化できるため、仮に小学校と中学校で重複するテーマがあった場合に、空いた時間を有効に活用できると感じた。
委員	校舎全体がゆとりのある空間になっていることで、児童生徒だけでなく教職員もゆとりを感じており、魅力的に感じた。地域の方が一体となって運営されている点も良かった。図書が全校で2万冊あると聞き、それだけの蔵書があれば9年間で幅広い教育ができるのではないかと思った。
委員	発達段階に合わせたステージ制について、9年間を見通した縦割りに重点を置いた工夫がなされていると感じた。一方で、同学年の中での切磋琢磨も必要なので、本市で検討をする際は、縦の学年間のつながりと横の同学年のつながりのバランスを考えながら検討することが必要だと思う。小中一貫教育の課題として、6年生のリーダーシップが育ちにくい、という話があるが、視察先の学校では工夫がされており、運用で十分対応できると感じた。また、学校に関わっていききたいという地域住民の方がいれば、コミュニティ・スクールを利活用して展開することも可能だと思うので、本市に引用できる点もあると感じた。
委員長	子どもの発達段階に合わせて柔軟にステージを分けられることはとてもよい。時代と共に子どもたちの発達が早期化してきた等の変化が指摘されている中で、ステージ制を導入することは妥当だと感じる。ステージ制を導入することは妥当だと感じる。ステージごとにフロアが分かれていることもハード面として良いと感じた。教科担任制について、従来は先生の配置の関係で実現することが難しかった点もあったが、義務教育学校ではそれが円滑にできることは大きなメリットである。

### 議題3 「学校適正規模・適正配置等に関する基本計画(案)」について

委員	学校再編後について、小学生はスクールバスを活用し、中学生は自転車通学が想定されているが、現在中学生の自転車登校許可が出ている距離は概ね半径2km以上となっている。仮にスクールバスについて概ね半径3km以上とした場合には、半径2~3kmの範囲において中学生は自転車通学なのに、小学生は歩かなければいけないケースが発生してしまうのではないか。
委員	資料4の「各小学校の通学路・通学距離のとりまとめ」を確認した時に大体の小学校において学区や通学路が半径2km以内に収まっている。スマート連絡帳を通じたアンケートでも、通学環境の変化が子どもたちへ及ぼす影響を心配する保護者からの意見も多いため、スクールバスの導入基準については半径3kmではなく、半径2kmでよいのではないか。
委員	予想以上に人口減少が進んでいる印象がある。事務局としては、今後の人口減少をどのように捉えているのか。
事務局	過去の保護者説明会に参加された保護者からも、同様に人口減少を実感してい

	<p>る旨の意見が出たほか、学校に子どもが少ないという理由で、小規模校の校区から大規模校の校区へ引越することを決めたといった話をされた保護者もおられた。人口減少は単なる自然の増減の問題だけではなく、周囲の環境変化により早まる場合もあると感じている。なお、児童生徒数の将来推計については、現時点での、最も合理的な手法で算出している。</p>
委員	<p>学校教育のカリキュラムについて、新しく整備された学校において教科担任制を先行して導入した際に、既存の学校と教育面で差が生まれるのではないかと。また、既存の学校から転校してきた児童生徒に対応できないのではないかと。</p>
事務局	<p>義務教育学校も現行の学習指導要領に則って運営されており、前期課程と後期課程は、それぞれ小学校課程と中学校課程に準拠している。ステージ制を導入して、カリキュラムに自由度がある学校はあるものの、前期課程と後期課程という基準は残る。また、転校してきた児童生徒がいた場合には、細やかに対応する必要があると考えている。</p>
委員	<p>スクールバスの導入基準と中学生の自転車通学について、中学校の場合は部活動の朝練がある場合をふまえると、通学距離に関わらず自転車通学の場合もあると考えていたが、中学校の現状が知りたい。</p>
委員	<p>土日の部活動の際に特例で自転車通学することはあるが、基本的に例外はない。部活動の地域移行が進んでいることや、教員の勤務時間の課題もあるため、現在はほとんどない。</p>
委員	<p>各務原市としては、中学校区単位のコミュニティ・スクールを活かしながら、中学校区単位で学校再編を進めていく、という理解をしている。資料1の「第4回検討委員会に対する保護者等からの主な意見」の中でPTAに関する意見があったが、保護者が学校運営に対して消極的で受け身の傾向がある印象を受ける。保護者を上手く巻き込みながら学校をつくっていく必要があり、学校再編についてもぜひ意見をもらいたい。また、今、学生ぐらいの世代が、実際に自分の子どもを新しい学校に通わせる世代になることが想定される。パブリックコメントを今後実施すると想定されるが、幅広い世代から意見を聞けることができるとよい。</p>
事務局	<p>基本計画(改定案)については、本検討委員会でいただいた意見を反映した上でパブリックコメントを3月6日～25日の期間で実施する予定である。合わせて市民説明会の開催を3月19日・20日に予定している。小中学生の保護者及び未就学児の保護者についてはスマート連絡帳を通して検討委員会の開催毎に情報発信を行い、意見を適時募集している。</p>
委員	<p>中学校区ごとに学校再編を検討し、その際にコミュニティ・スクールを活用しながら地域とともに進めていくという方向性にはとても賛同できる。</p> <p>通学距離やスクールバスの導入については保護者が最も関心のある事項であり、慎重に検討する必要がある。通学距離について概ね半径3kmに収まっている</p>

	<p>が、今の気候変動を鑑みるとリスクが大きく、半径3kmは遠い印象である。</p> <p>義務教育学校のケースを考えた場合、後期課程における自転車通学範囲の見直しも必要かもしれないが、どちらにしても半径3kmというのは、距離としては遠いと感じる。</p>
委員	<p>コミュニティ・スクールの当事者としては、地域によって活動内容に差があると感じる。学校視察を通して、地域と学校のつながりを強く感じたため、各務原市においても地域全体で組織的に学校運営していくべきであると考えている。</p>
事務局	<p>小中一貫化になることで、小中のつながりが生まれ、コミュニティ・スクールとして運用しやすく、地域が入りやすくなったという意見も視察の中で聞いた。</p>
委員	<p>現状、地域住民が気軽に小学校や中学校に入れる雰囲気はないことから、地域と学校のつながりは検討するべきである。ある中学校の校長と話した際も「学校運営は学校だけではできない」という話があった。</p>
事務局	<p>青少年育成市民会議や子ども会、自治会といった多種多様な地域団体間のつながりの部分に課題があると思われる。この課題を解決するには、コミュニティ・スクールが学校と地域の架け橋となって、地域と学校をつなげていくという動きが必要になる。実際に市内のある中学校ではコミュニティ・スクールに参加してもらっている地域の方に学校の職場体験の候補を斡旋してもらい、つながりが広がったというケースもある。</p>
委員	<p>コミュニティ・スクールの一員として活動しているが、活動内容については常に課題を感じている。学校再編を契機として、コミュニティ・スクールが学校に入り込んだ形で運営する手法を考える良い機会である。視察先では食堂を活用して地域の方がカフェを実施していた。運営開始の前段階でしっかりと協議すれば、コミュニティ・スクールが上手く機能すると考える。</p>
委員	<p>コミュニティ・スクールも含め、地域全体で子どもたちを育てていく必要がある。青少年育成市民会議では中学生を中心としたふれコミ隊の活動があるが、一部の中学校区では小学生も含めて活動しており、その結果小学校から中学校へ入りやすい印象がある。こうした取組を活用すれば、小中一貫校の運営もスムーズに進むと思う。</p>
委員	<p>個人的には、学校の経営方針に関与できると記載されているものの、実際にどのように位置づけ、活用すべきか不透明な部分があると感じている。コミュニティ・スクールを地域全体で上手く利用しようという考えをもつことが重要だと思う。</p>
委員	<p>地域の運動会を開催しなくなった学校区もでてきている。地域の祭りについても自治会にとっては負担であり、できるだけ行事をなくしていこうといった風潮もあるため、コミュニティ・スクールを活用する場がこれから減っていく可能性がある。各務原市としてどのように子どもを育てていきたいのか明確にした上で、地域全体で子どもを育てていく意識を高めるべきである。</p>

委員	地域の行事が減っていく中で、持続可能な地域活動の必要性を感じている。
委員	全ての学校が一斉に建て替わる訳ではないため、既存の学校配置であっても、どのように小中一貫教育を進めるか、どのように同様の教育環境や学びを提供するかを検討することが求められる。その中でコミュニティ・スクールを活かした学校再編は一つの解決策だと思う。
委員長	基本計画(改定版)に記載のスクールバスの導入範囲に関する意見が多かった。概ね半径3kmとなっているが、概ね半径2kmに変更するという方向性で修正するというので良いか。また、その他の軽微な修正事項等については委員長の私に一任ということが良いか。
	(賛成多数)
委員長	賛成多数であるため、概ね半径2kmに変更し、その他軽微な修正等については委員長一任とさせていただく。 以上で、本日予定していた議事はすべて終了した。